

教科	算数	単元名	長さ
----	----	-----	----

本時のねらい

・ものさしによる測定の習熟を図るとともに、身のまわりのものの長さについての量感を豊かにする

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・Kahoot を用いて、テンポよく前時までの内容を確認する。
- ・〇 c m ぐらいのものはあるかと予測をし、身のまわりから見つけ出して測定する。
- ・クラス全体で長さの図鑑を作成することで、共同編集の基本的な使い方を身につける。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Kahoot! ・miro (オンラインホワイトボードアプリ) ・ミライシード (オクリンク)

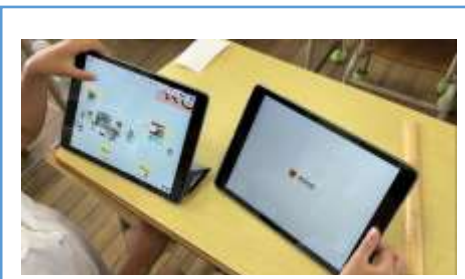
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	・Kahoot ! を使って、前時までのふりかえり・既習事項の確認をする。【写真 1】 本時のめあて「みんなで作ろう長さの図かん」	・Kahoot ! を用いて、前時までの内容・既習事項をテンポよく、効率的に振り返ることができる。本時の内容で押さえておきたい問題を取り入れることで展開場面の活動に繋げることができる。
展開 (30 分)	① 身のまわりのものの長さをものさしで測り、クラウド上で身のまわりの長さ図鑑を学級で作成する。 長さ図鑑を確認し、友達がアップロードしていないものを探して測定する。(机の長さ・黒板消し・筆箱等) ② 写真を撮る。 ③ オクリンクのカードで長さを記入する。 ④ miro にアップロードする。これを繰り返しクラス全体で図鑑を作成していく。 【写真 2】	・事前に miro 上に長さの図鑑のテンプレートを作成しておく。 ・オクリンク上にアップロードする際に用いるカードを作成しておく。 写真をそのまま使用すると画像サイズが大きすぎるので、このオクリンクのカードのスクリーンショットをアップロードするようにする。 ・今までにアップロードされていないものの長さを測定させることで、既存のものとの長さとの長短の比較が自然とできるようになる。また、より多くのものの長さを測定する必要性が生まれる。
まとめ (5 分)	・振り返りを記入し、全体で共有する。 【写真 3】	・今後取り組みたいことや、長いものの長さを測るのには 30 cm ものさしでは困難なことなど、良い振り返りをクラス全体で共有することでこれからの学習にも繋げることができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】Kahoot ! から本時の展開へと繋げる。



【写真 2】miro 上の長さ図鑑を更新していく



【写真 3】ふりかえりを記入し、全体で共有する

児童生徒の反応や変容

- ・図鑑を作成する作業の中、まだアップロードされていないものを探すことで、「何 c m ぐらいのものにはどんなものがあるのか」と、自然ともの長さの予測ができた。
- ・長さを測る役と写真を撮る役に分かれて協力して行ったことで、1 人で測定することなく、ものさしによる測定の習熟につながった。また、ペアやグループで測定したことで、自然と対話が生まれた。
- ・クラスの仲間と同じ図鑑を更新していくことで、完成に近づけようと主体的に活動に取り組むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・Kahoot ! を用いることで、前時までの内容・前学年までの既習事項・前時の躓きを効率的かつ楽しみながら振り返ることができる。場面に応じて解説を加えたり、『チームモード』『学生主体のモード』を活用したりして遊びに終わらず、遊びの中から学習に繋げていく工夫をしていきたい。また、取り組む問題は学年 Teams でリンクを事前に公開している。授業前の取り組み、授業後の復習、テスト前にも再度取り組むことができる。
- ・低学年のうちから端末の基本的な活用方法 (写真撮影、スクリーンショット、コピー & ペースト、提出、共同作業、情報の更新など) に慣れさせ、それらを繰り返し行うことで中・高学年でのより発展的で効果的な活用を促進する。
- ・以前はカメラで撮影したものを印刷し、後日掲示するなど時間差があったが、オンラインで共同作業をすることでリアルタイムに活動を行うことができる。